

京都市消防局訓令乙第5号

各 部
防 災 危 機 管 理 室
消 防 学 校
各 消 防 署

京都市消防吏員服制規程の一部を次のように改正する。

平成17年8月26日

京都市消防局長 森 澤 正 一

第1条中「第2条第2項に規定する」を「第3条の規定に基づき、消防吏員の」に改める。

第3条を第4条とする。

第2条の見出し中「特別な」を「消防局長が定める」に改め、同条中「消防吏員」を「規則第2条第2項に規定する消防吏員」に改め、「特別な」を削り、「別表」を「別表第2」に改め、同条を第3条とし、第1条の次に次の1条を加える。

(服制に係る制式等)

第2条 規則第2条第1項に規定する消防吏員の服制に係る制式、地質その他の服制に関する細目は、別表第1のとおりとする。

別表を次のように改める。

別表第1 (第2条関係)

合 冬 帽	地 質	濃紺色の布地	
	制 式	<p>男性用は、円形とし、前ひさし及びあごひもは、黒色の合成皮革製とする。</p> <p>あごひもの両端は、帽の両側において金色の金属製消防き章各1個で留める。</p> <p>女性用は、平頭型とし、帽の腰周りに黒色のリボンを巻く。</p> <p>形状は、第1図1(1)及び(2)のとおりとする。</p>	
	帽 章	<p>帽の前面に、黒色の布地の台地に銀色の金属製消防き章を金色のモール製の桜模様で囲んだ標章を付ける。</p> <p>形状は、第1図2のとおりとする。</p>	
周 章	<p>帽の腰周りには、黒色のなな子織を巻き、消防司令以上は蛇腹組の金色の線及び蛇腹組の黒色の線を、消防司令補は蛇腹組の黒色の線を巻く(男性用に限る。)</p> <p>形状及び寸法は、第1図3のとおりとする。</p>		
合 冬 服	上 衣	地 質	合冬帽と同様とする。
		制 式	<p>背広ダブルとし、消防き章を付けた金色の金属製ボタン各3個を2行に付ける。</p> <p>前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、胸部の左に1個のポケットを付ける。</p> <p>女性用の打合わせは左前とする。</p> <p>形状は、第2図1(1)ア及びイのとおりとする。</p>
		そ で 章	<p>表半面に1条の黒色のしま織線をまとう。</p> <p>消防司令以上は、しま織線の下部に1条の蛇腹組の金色の線をまとい、その下部に金色の金属製消防き章を付ける。</p> <p>消防司令補は、しま織線の下部に1条の蛇腹組の金色の線をまとう。</p> <p>消防士長は、しま織線の下部に1条の蛇腹組の銀色の線をまとう。</p> <p>形状及び寸法は、第2図1(2)のとおりとする。</p>
		襟 章	<p>金属製とし、銀色の京都市紋章の略章(以下「市章」という。)を載せた桜型の台地に金色の消防き章を付けたものとする。</p> <p>上衣の左下襟に付ける。</p>

			形状は、第2図1(3)のとおりとする。
	ズボン	地質	上衣と同様とする。
		制式	長ズボンとし、両もも及び後方の右に各1個のポケットを付け、後方のポケットは、ボタンで留める。 すそは、シングルとする。 形状は、第2図2のとおりとする。
	スカート	地質	上衣と同様とする。
		制式	セミタイト型とし、後ろファスナー開きとする。 後面の中央部にスリットを開ける。 前脇の右にポケットを付ける。 形状は、第2図3のとおりとする。
夏帽	地質	紺色の布地	
	制式	形状は、合冬帽と同様とする。ただし、男性用の側面はメッシュとする。	
	帽章	合冬帽と同様とする。	
	周章	帽の周りに、黒色のなな子織を巻く(男性用に限る。) 形状及び寸法は、第3図のとおりとする。	
夏服	上衣	地質	淡青色の布地
		制式	台襟付きシャツカラーとする。 ボタン5個を1行に付ける。 胸部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、ボタンで留める。 そでは、長そで及び半そでの2種類とし、長そでのそで口は、ボタンで留める。 肩章は、外側の端を肩の縫い目に縫い込み、襟側をボタンで留める。 女性用の打合わせは左前とする。 形状は、第4図1のとおりとする。
	ズボン	地質	夏帽と同様とする。
		制式	長ズボンとし、両もも及び後方の左右に各1個のポケットを付け、後方のポケットは、ボタンで留める。 すそは、シングルとする。 形状は、第4図2のとおりとする。
スカート	地質	夏帽と同様とする。	
	制式	合冬服スカートと同様とする。ただし、ポケットは、前脇の左右に付ける。 形状は、第4図3のとおりとする。	
			紺色の合成皮革製の台地とし、銀色の消

消	防	局	章	防き章及び金色の「KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT」の文字をオレンジ色の枠で囲んだものとする。 消防局章は、胸部の左に付ける。 形状は、第5図のとおりとする。	
階	級		章	黒色の合成皮革製の台地とし、上下の両縁に金色のししゅう状の線を施し、中央に金色の平織状の線及び銀色の消防き章を付けたものとする。 階級章は、胸部の右に付ける。 形状及び寸法は、第6図のとおりとする。	
消	防	長	章	銀色の台地とし、3条の金色の線及び2条の黒色の線を施し、中央に、いぶし銀色の桜葉及び銀磨きの桜花で囲んだはめ込みの金色の消防章を配する。 消防長章は、階級章の上部に付ける。 形状及び寸法は、第7図のとおりとする。	
ネ	ク	タ	イ	濃紺色の布地で、幅ネクタイとする。	
ワ	イ	シ	ャ	白色の布地で、長そで又は半そでとする。	
ブ	ラ	ウ	ス		
バ	ン		ド	黒色の合成皮革製とし、金属製前面革張り及び銀色（つや消し）の消防き章入りのバックルを付ける。 形状は、第8図のとおりとする。	
活	動	帽	地	質	紺色の布地
			制	式	野球帽型とし、前ひさは、地質と同様とする。 帽の前面に、「KYOTO CITY FIRE DEPARTMENT」の文字を朱色の糸で、「KYOTO」の文字を銀色の糸でししゅうし、金色の糸で装飾ししゅうする。 形状は、第9図のとおりとする。
	合		地	質	紺色の難燃性の布地とし、襟、肩及び後面の上部にオレンジ色を配する。
			制	式	ワイシャツカラーとし、掛け合わせにファスナーを付ける。 胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。 そでは、長そでとし、そで口にファスナーを付ける。 後面の上部に「京都市消防局」の文字を紺色の反射材で入れる。 胸部の左に胸章並びに所属章及び個人章

活 動 服	冬	上 衣		を付ける。 形状は、第10図1(1)のとおりとする。
			胸 章	地質と同様の台地に、「京都市消防局」の文字をオレンジ色の系でししゅうする。 形状は、第10図1(2)のとおりとする。
			所 属 章	地質と同様の台地に、所属等を明示する文字をオレンジ色の系でししゅうする。 形状は、第10図1(3)のとおりとする。
			個 人 章	地質と同様の台地に、職員の名字を明示する文字をオレンジ色の系でししゅうする。 形状は、第10図1(4)のとおりとする。
	服	ズボン	地 質	紺色の難燃性の布地
			制 式	長ズボンとし、両もも、両ももの側面及び後方の左右に各1個のポケットを付け、両ももの側面及び後方のポケットは、面ファスナーで留める。 すそは、シングルとする。 形状は、第10図2のとおりとする。
	夏	上 衣	地 質	合冬服と同様とする。
			制 式	
			胸 章	
			所 属 章	
			個 人 章	
		服	ズボン	地 質
	制 式			
バ ン ド			紺色の布地とし、金色のバックルを付ける。 形状は、第10図3のとおりとする。	
救 助 活 動 帽	地 質		オレンジ色の導電性を有する難燃性の布地	
	制 式		変形八角型とし、前ひさは、地質と同様とする。 形状は、第11図1のとおりとする。	
	帽 章		帽の前面に、黒色の台地に銀色の消防き章を付ける。 形状は、第11図2のとおりとする。	

救助活動服	上 衣	地 質	オレンジ色の導電性を有する難燃性の布地
		制 式	<p>折り襟とし、掛け合わせにファスナーを付ける。</p> <p>胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>そでは、ひじ当て付き長そでとし、そで口にファスナーを付ける。</p> <p>前後面の上部及びひじ当てに刺しこを施す。</p> <p>後面の上部に「京都消防」及び「FIRE RESCUE」の文字を紺色の系でししゅうする。</p> <p>胸部の左に胸章並びに所属章及び個人章を付ける。</p> <p>形状は、第12図1(1)のとおりとする。</p>
		胸 章	<p>地質と同様の台地に「京都市消防局」の文字を黒色の系でししゅうする。</p> <p>形状は、第12図1(2)のとおりとする。</p>
		所 属 章	活動服合冬服と同様とする。
		個 人 章	
	ズボン	地 質	上衣と同様とする。
		制 式	<p>ひざ当て付き長ズボンとし、両ももの側面に各1個のふた付きポケットを付ける。</p> <p>前後面の上部及びひざ当てに刺しこを施す。</p> <p>すそは、シングルとし、締めひもを通す。</p> <p>形状は、第12図2のとおりとする。</p>
	バ ン ド		<p>オレンジ色の合成繊維製とし、バンド金具を付ける。</p> <p>形状は、第12図3のとおりとする。</p>
	国際消防救助隊員腕章		<p>緑色の布地の台地に、茶色の系で縁取り及び図柄を、金色及びオレンジ色の系で「JF」及び「IRT」の文字を、それぞれししゅうする。</p> <p>国際消防救助隊員（本部指揮救助隊員を除く。）は、左上腕部に国際消防救助隊員腕章を付ける。</p> <p>形状は、第12図4のとおりとする。</p>
	地 質		暗灰色の布地
		舟型とし、前ひさしは地質と同様とする	

救急活動帽	制式	とともに、その表を白色の反射布で覆う。 あごひもは、地質と同様とする。 形状は、第13図1のとおりとする。	
	帽章	帽の前面に、地質と同様の台地に白色の消防き章を付ける。 形状は、救助活動帽と同様とする。	
	周章	帽の腰周りに1条ないし3条の白色の線を入れる。 形状及び寸法は、第13図2のとおりとする。	
合冬救急活動服	上衣	地質	明るい黄みがかった灰色の布地
		制式	台襟付きシャツカラーの長そでとし、掛け合わせに地質と似た色のボタン7個を1行に付ける。 胸部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、ボタンを付ける。 襟に白色の替え襟を付ける。 肩章は、外側の端を肩の縫い目に縫い込み、襟側を地質と似た色のボタンで留める。 胸部の左に胸章並びに所属章及び個人章を付ける。 形状は、第14図1のとおりとする。
		胸章	地質と同様の台地に、「京都市消防局」の文字を黄色の系でししゅうする。 形状は、活動服合冬服と同様とする。
		所属章 個人章	活動服合冬服と同様とする。
	ズボン	地質	暗灰色の布地
		制式	長ズボンとし、両もも及び後方の左右に各1個のポケットを付け、後方のポケットは、ボックスプリーツ上切替え仕立てとする。 すそは、シングルとする。 形状は、第14図2のとおりとする。
	バンド		白色のビニール製とし、銀色のバックルを付ける。 形状は、第14図3のとおりとし、図中斜線部分に白色の反射テープを巻く。
		紺色の布地の台地に、金色の系で縁取り及び葉の図柄を、濃紺色の系で上部の明るい黄色の台地に「救急救命士」の文字を、白色の系で「ELSTA KYOTO」及び「KYOTO FIRE DEPART	

	救急救命士腕章		MENT」の文字並びに中央の図柄及び消防き章を、それぞれししゅうする。 救急救命士は、左上腕部に救急救命士腕章を付ける。 形状は、第14図4のとおりとする。
夏救急活動服	上 衣	地 質	明るい青みがかった灰色の布地
		制 式	台襟付きシャツカラーとし、掛け合わせに地質と似た色のボタン7個を1行に付け、後面の上部は、スリット空き、背裏メッシュ仕立てとする。 胸部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、ボタンを付ける。 襟に白色の替え襟を付ける。 そでは、長そで及び半そでの2種類とする。 肩章は、外側の端を肩の縫い目に縫い込み、襟側を地質と似た色のボタンで留める。 胸部の左に胸章並びに所属章及び階級章を付ける。 形状は、長そでにあっては、合冬救急活動服と同様とし、半そでにあっては、第15図のとおりとする。
	ズボン	胸 章	合冬救急活動服と同様とする。
		所 属 章	
		個 人 章	
	バ ン ド	地 質	
		制 式	
救急救命士腕章			
防 火 帽	地 質	銀色の硬質地	
	制 式	かぶと型とし、内部に頭部の衝撃を防ぐ装置を付ける。 前後部にひさしを付け、顔面保護板、しころ及びあごひもを付ける。 帽の左右の側面に「京都市消防局」の文字を青色の反射材で入れ、後面には所属等を明示する文字を入れる。 形状は、第16図1のとおりとする。	
	帽 章	帽の前面に、銀色の消防き章を金色の桜模様で囲んだ標章を付ける。 形状は、第16図2のとおりとする。	
			帽の腰周りに1条ないし3条の赤色の反

	周	章	射線を入れる。 形状及び寸法は、第16図3のとおりとする。
	し	こ	ろ
防 火 衣	上 衣	地 質	銀色の耐熱性防水布地
		制 式	立て襟とし、掛け合わせにファスナーを付ける。 胸部の右及び側腹部の左右に雨ぶた付きポケットを付ける。 胴には、ベルトを付ける。 胸部の左右、すそ及びそでに反射布を縫い付ける。 後面の上部に、「京都市消防局」及び「Kyoto City」の文字を黒色で表示した反射布を縫い付ける。 形状は、第17図1のとおりとする。
	ズボン	地 質	濃紺の耐熱性防水布地 本部指揮救助隊員及び救助隊員は、オレンジ色の耐熱性防水布地
		制 式	ひざ当て付き長ズボンとし、左ももの側面に雨ぶた付きポケットを付ける。 胴には、サスペンダーを付ける。 すそは、シングルとし、ファスナーを付ける。 すそ口に反射布を付ける。 形状は、第17図2のとおりとする。
手 袋	常 用 手 袋		白色の布地で、5本指とする。
	作 業 手 袋		布地又は皮革製で、5本指とする。
靴	短 靴		黒色の皮革製又は合成皮革製とする。
	ゴ ム 長 靴		黒色のゴム製長靴とする。
	防 火 靴		黒色の皮革製ブーツで、鋼板入りとする。
	活 動 靴		黒色の皮革製編上靴で、鋼板入りとする。
	救 急 靴		黒色の皮革製短靴で、鋼板入りとする。
		地 質	濃紺色の布地
			兼用襟（セミステン形）とし、掛け合わ

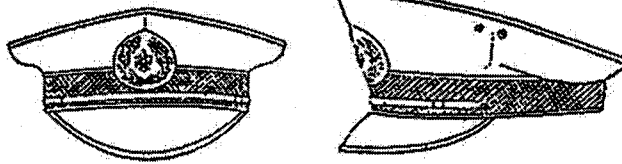
防 寒 衣	コート型	制 式	<p>せにファスナー及び地質と似た色のホック5個を1行に付ける。</p> <p>胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。</p> <p>そでは、長そでとし、そで口の内側には、地質と似た色のゴム織布を付ける。</p> <p>胴には、バンドを付ける。</p> <p>形状は、第18図1(1)のとおりとする。</p>
		胸 章	<p>胸部の左の上部に、地質と似た色の台地に銀色の桜花で囲んだ黒色の市章を配し、中央に金色で織った消防き章を付ける。</p> <p>形状は、第18図1(2)のとおりとする。</p>
	ジャンパー型	地 質	紺色の導電性を有するはっ水性の布地
		制 式	<p>立ち襟とし、掛け合わせにオレンジ色のファスナーを付け、前立ては反射布で覆う。</p> <p>胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>前面の下部の左右に各1個のふた及びファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>胸部の左に「京都市消防局」の文字をオレンジ色の反射材で入れる。</p> <p>後面の上部に「京都市消防局」及び「KYOTO CITY」の文字をオレンジ色の反射材で入れる。</p> <p>形状は、第18図2のとおりとする。</p>
雨 衣	上 衣	地 質	濃紺色の防水性布地
		制 式	<p>2枚襟とし、頭きんを付ける。</p> <p>掛け合わせにファスナー及び金色のホック5個を1行に付ける。</p> <p>前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。</p> <p>そでは、長そでとし、そで口の外側には、濃紺色のバンドを付け、金色のホックで留める。</p> <p>胴には、バンドを付ける。</p> <p>胸部の左に胸章を付ける。</p> <p>形状は、第19図1(1)のとおりとする。</p>
			胸部の左の上部に、濃紺色の台地に「京都市消防局」の文字をオレンジ色の系でし

	ズボン	胸章	しゅうする。 形状は、第19図1(2)のとおりとする。
		地質	上衣と同様とする。
		制式	長ズボンとし、後方の左にふた付きポケットを付ける。 すそは、シングルとし、ファスナーを付ける。 形状は、第19図2のとおりとする。

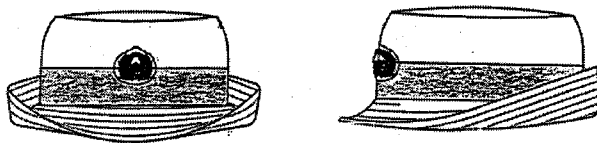
第1図 合冬帽 (数字は、寸法を示し、その単位はミリメートルとする。以下同じ。)

1 (1) 制式

(男性用)



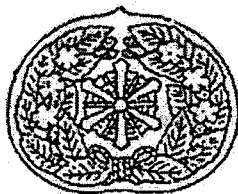
(女性用)



(2) き章

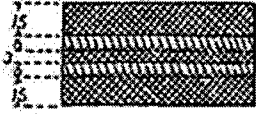


2 帽章

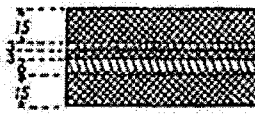


3 周章

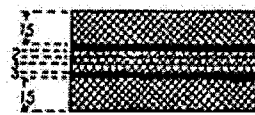
消防司監



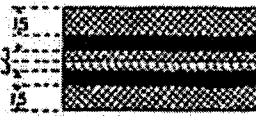
消防正監及び消防監



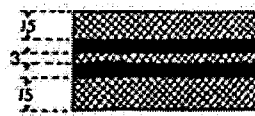
消防司令長



消防司令



消防司令補



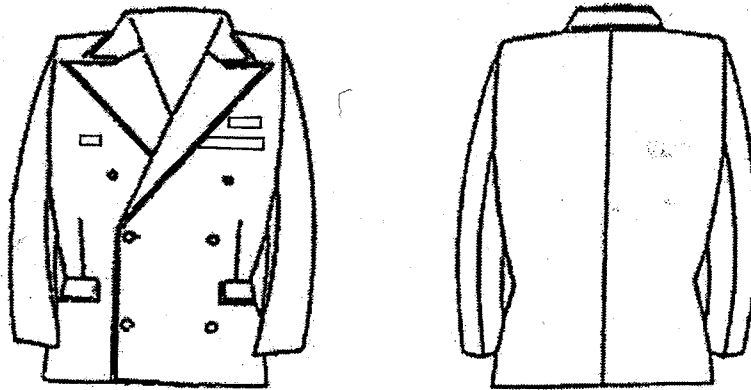
消防士長, 消防副士長及び消防士



第2図 合冬服

1 上衣

(1) ア 制式

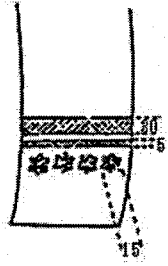


イ ボタン

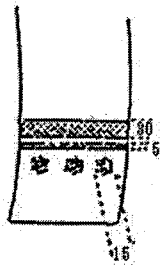


(2) そで章

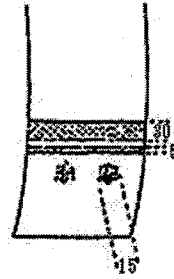
消防司監及び消防正監



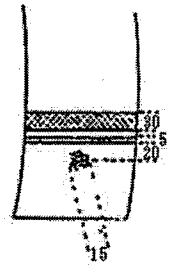
消防監



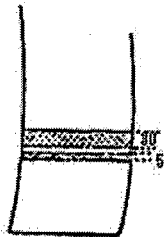
消防司令長



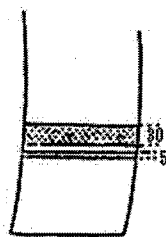
消防司令



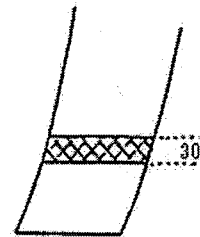
消防司令補



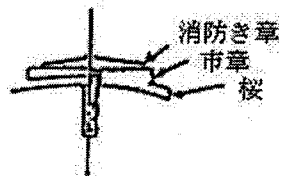
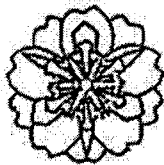
消防士長



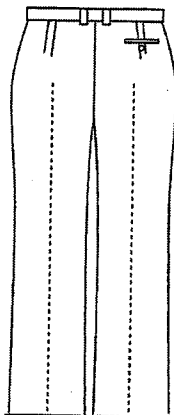
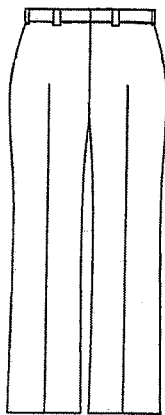
消防副士長及び消防士



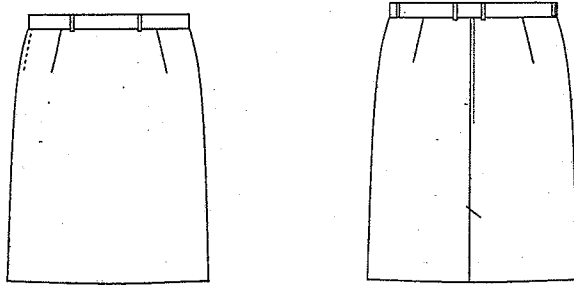
(3) 襟章



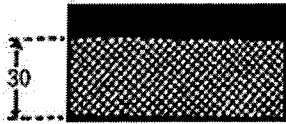
2 ズボン制式



3 スカート制式



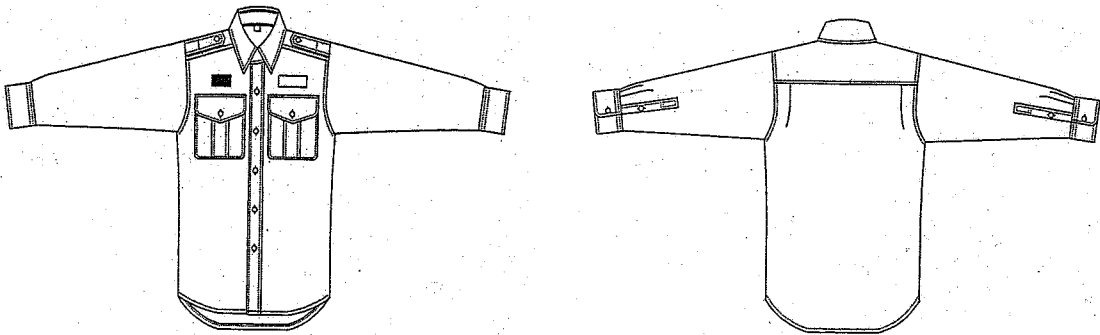
第3図 夏帽周章



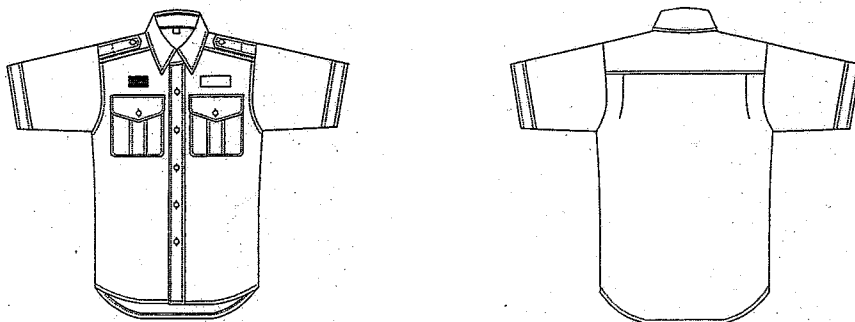
第4図 夏服

1 上衣制式

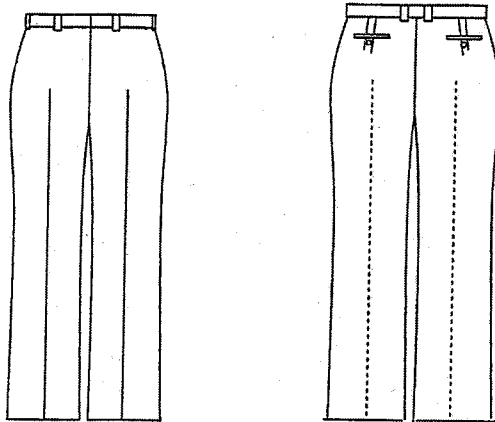
(長そで)



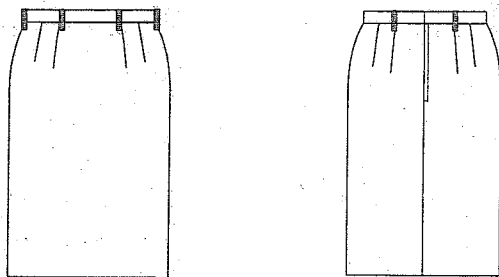
(半そで)



2 ズボン制式



3 スカート制式

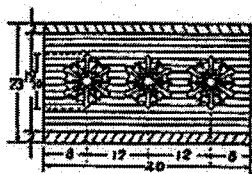


第5図 消防局章

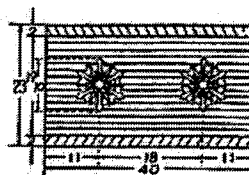


第6図 階級章

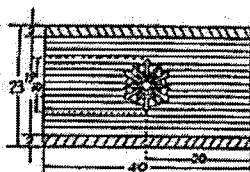
消防司監



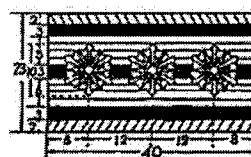
消防正監



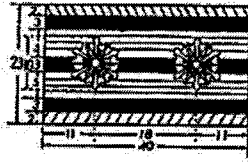
消防監



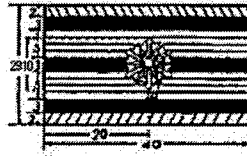
消防司令長



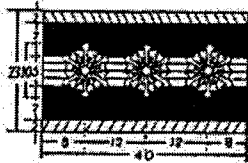
消防司令



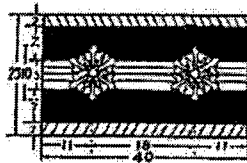
消防司令補



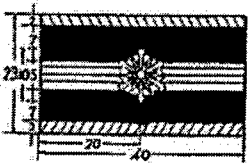
消防士長



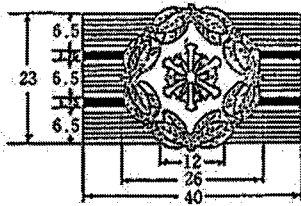
消防副士長



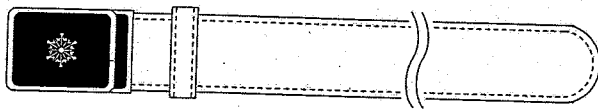
消防士



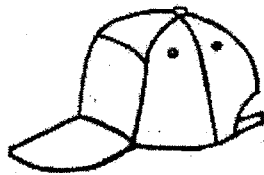
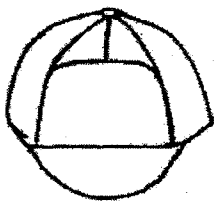
第7図 消防長章



第8図 バンド



第9図 活動帽制式

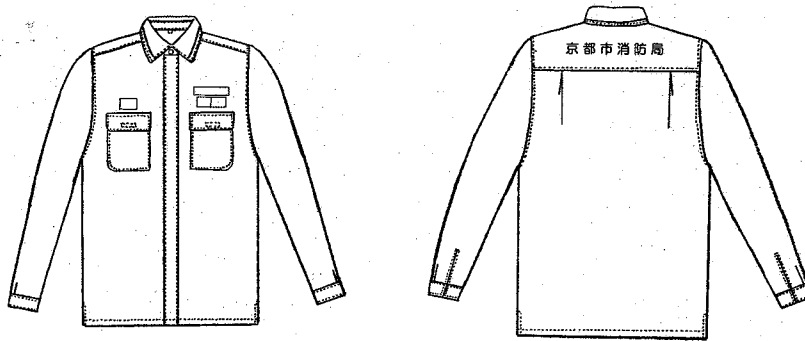




第10図 活動服合冬服

1 上衣

(1) 制式

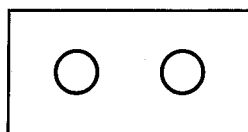


(2) 胸章



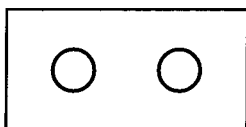
(3) 所属章

所属等を明示する文字

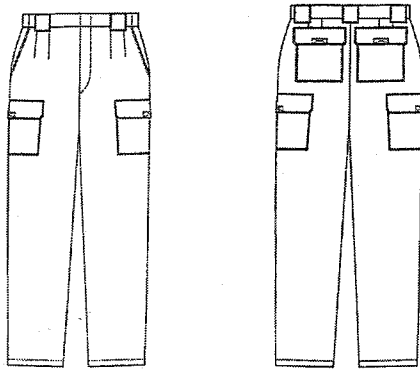


区 分	明示する文字
消防局本部に勤務する 部長級以上の職員	「局長」, 「〇〇担 当部長」等
消防局本部に勤務する 上記以外の職員	「庶務」, 「防災危 機管理」等
消防署又は消防分署に 勤務する職員	「北」, 「醍醐」等

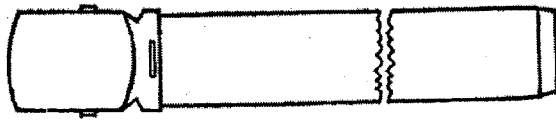
(4) 個人章



2 ズボン制式

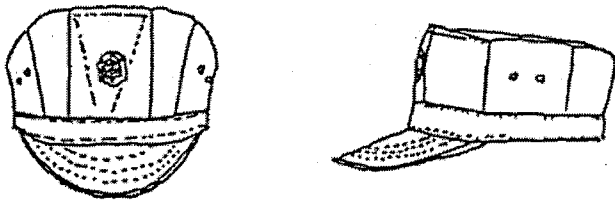


3 バンド



第11図 救助活動帽

1 制式



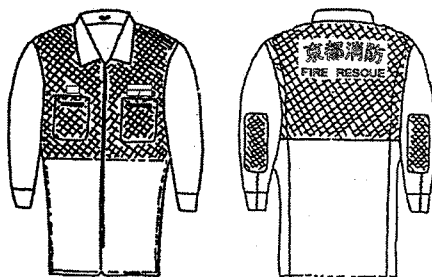
2 帽章



第12図 救助活動服

1 上衣

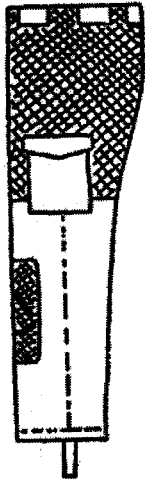
(1) 制式



(2) 胸章



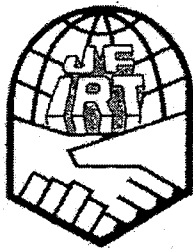
2 スボン制式



3 バンド

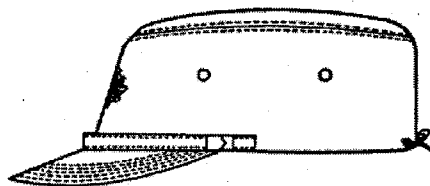
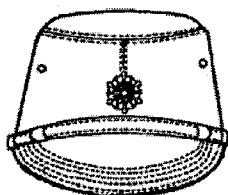


4 国際消防救助隊員腕章



第13図 救急活動帽

1 制式

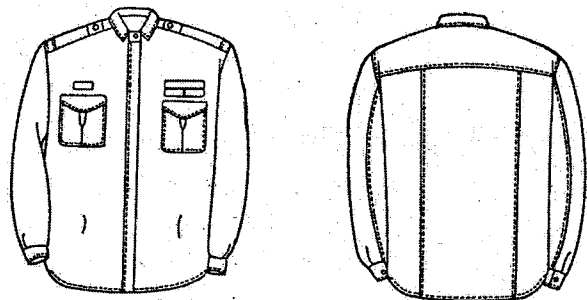


2 周章

階 級	周 章
消 防 司 監	
消 防 正 監	
消 防 監	
消 防 司 令 長	
消 防 司 令	
消 防 司 令 補	
消 防 士 長	
消 防 副 士 長	
消 防 士	

第14図 合冬救急活動服

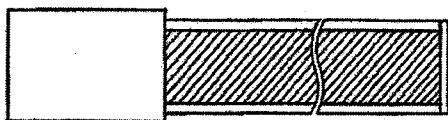
1 上衣制式



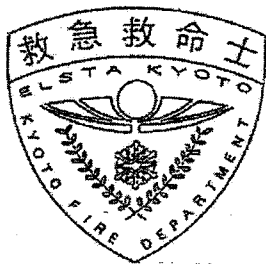
2 スボン制式



3 バンド

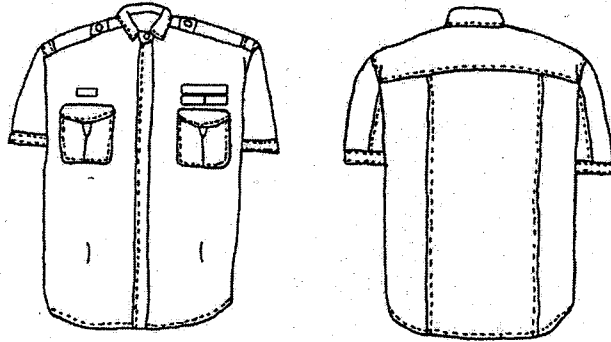


4 救急救命士腕章



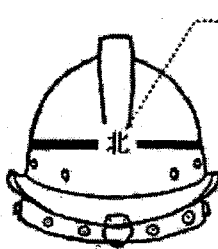
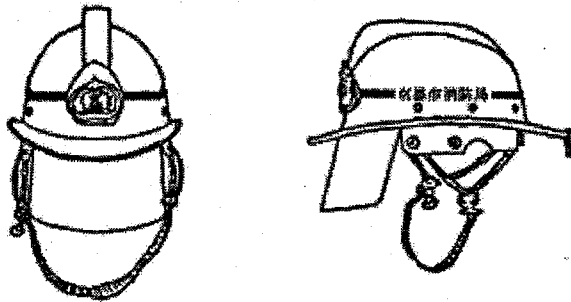
第15図 夏救急活動服上衣制式

(半そで)



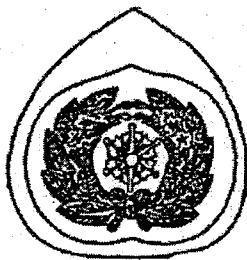
第16図 防火帽

1 制式






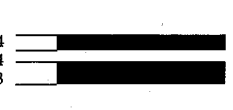





所属等を明示する文字

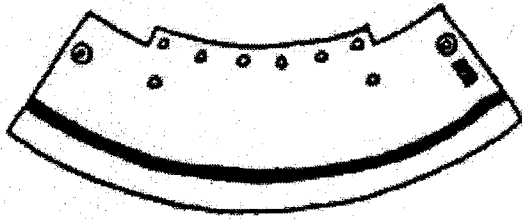
2 帽章



3 周章

階 級	周 章
消防司監	
消防正監	
消防監	
消防司令長	
消防司令	
消防司令補	
消防士長	
消防副士長	
消 防 士	

4 しころ

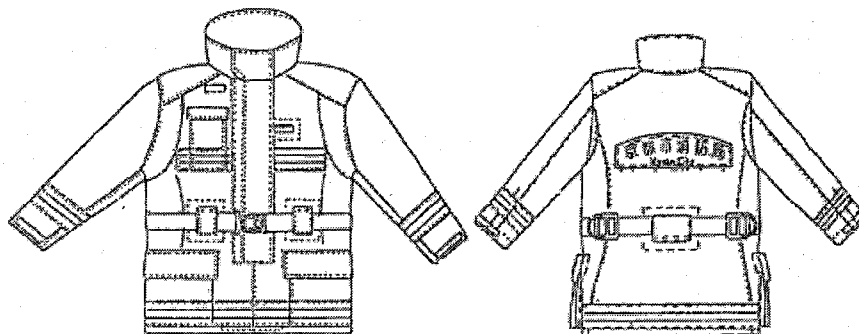


しころの周章

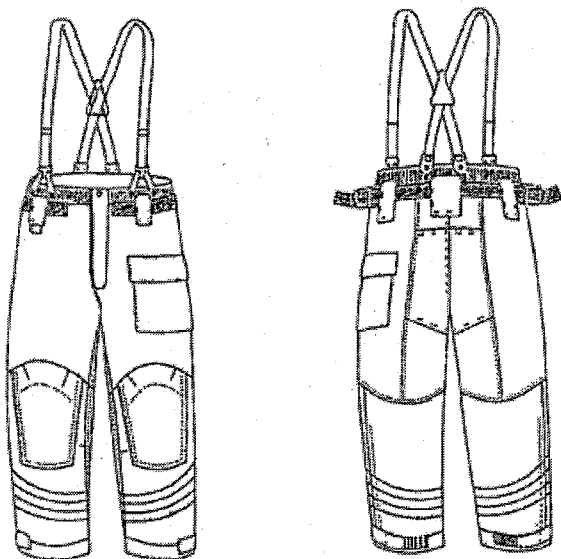
階 級	周 章
局本部長	20 6 20 6 20
司令部長	10 6 20 6 20
署本部長	10 6 10 6 10
指揮隊長	20 6 20
副指揮隊長	10 6 20
隊 長	20
副 隊 長	6

第17図 防火衣

1 上衣制式



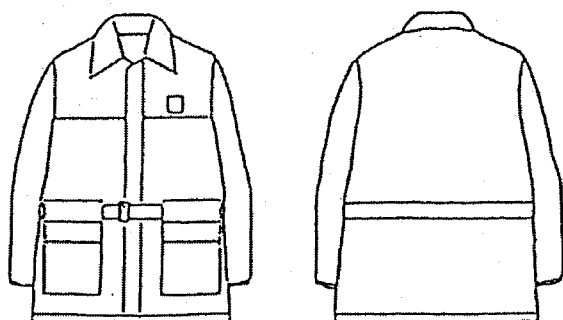
2 ズボン制式



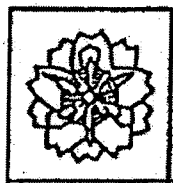
第18図 防寒衣

1 コート型

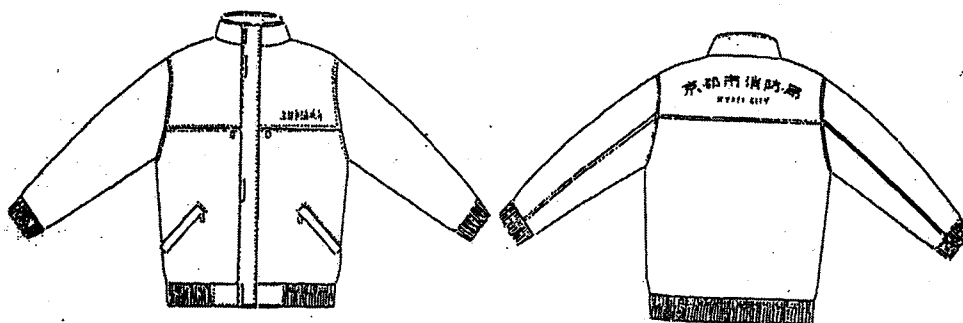
(1) 制式



(2) 胸章



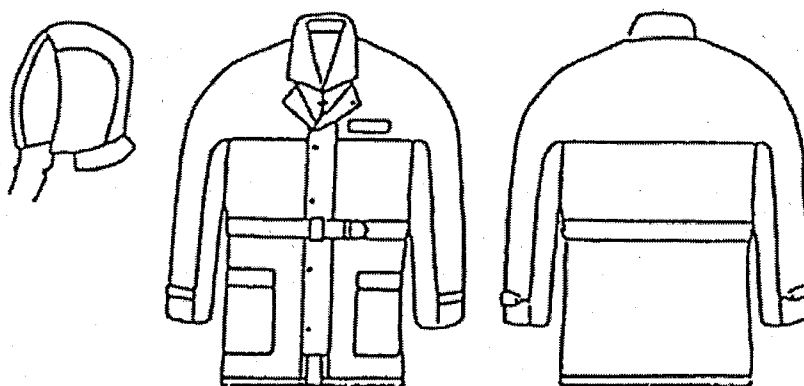
2 ジャンパー型制式



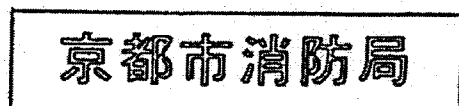
第19図 雨衣

1 上衣

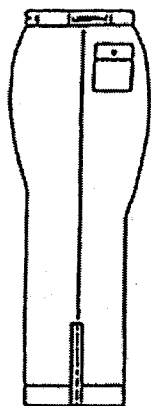
(1) 制式



(2) 胸章



2 ズボン制式



別表第1の次に次の1表を加える。

別表第2 (第3条関係)

保安帽	地	質	白色の硬質地	
	制	式	かぶと型とし、あごひもを付ける。 帽の左右の側面に、「京都市消防局」の文字を黒色で入れる。 形状は、第1図1のとおりとする。	
	帽	章	帽の前面に、銀色の消防き章を付ける。 形状は、第1図2のとおりとする。	
	周	章	別表第1防火帽と同様とする。ただし、反射線は灰色とする。	
救助帽	地	質	白色の硬質地	
	制	式	かぶと型とし、内部に頭部の衝撃を防ぐ装置を付ける。 耳当て及びあごひもを付け、帽の下端外周りに衝撃緩衝用ゴムを巻く。 帽の左右の側面に「京都市消防局」の文字を黒色で入れ、後面には所属等を明示する文字を入れる。 形状は、第2図のとおりとする。	
	帽	章	保安帽と同様とする。	
	周	章	別表第1防火帽と同様とする。	
救急帽	地	質	白色の硬質地	
	制	式	かぶと型とし、内部に頭部の衝撃を防ぐ装置を付ける。 あごひもを付ける。 帽の左右の側面に「京都市消防局」の文字を青色の反射材で入れ、後面には所属等を明示する文字を入れる。 形状は、第3図1のとおりとする。	
	帽	章	帽の前面に、銀色の消防き章を金色の桜模様で囲んだ標章を付ける。 形状は、第3図2のとおりとする。	
	周	章	別表第1防火帽と同様とする。	
活動用下衣	長そで	地	質	濃紺色の布地
		制	式	丸首襟とする。 そで口は、ゴム織りとする。 形状は、第4図1のとおりとする。
	半そで	地	質	長そでと同様とする。
		制	式	丸首襟とする。 胸部の左に「KYOTO CITY」及び「FIRE DEPT.」の文字を白色でプリントする。 形状は、第4図2のとおりとする。

救 急 衣	地 質	淡緑色の布地	
	制 式	<p>丸首襟とし、掛け合わせにファスナー及び飾りボタン3個を1行に付ける。</p> <p>右肩に飾りボタン2個を付ける。</p> <p>胸部の左及び前面の下部の左にポケットを付ける。</p> <p>そでは、長そでとし、後面のすそは、サイドベンツとする。</p> <p>胸部の左に、「京都市消防局救急隊」の文字を赤色の系でししゅうし、救急救命士は、その下部に「救急救命士」の文字を青色の系でししゅうする。</p> <p>形状は、第5図のとおりとする。</p>	
本部指揮救助活動帽	地 質	別表第1救助活動帽と同様とする。	
	制 式	<p>変形八角型とし、前ひさは、地質と同様とする。</p> <p>帽の左横側に「KYOTO CITY F.D. SUPER COMMAND RESCUE TEAM」の文字を黒色の系でししゅうする。</p> <p>形状は、第6図1のとおりとする。</p>	
	帽 章	<p>帽の前面に、紺色の布地の台地に赤色の系で縁取りを、白色、金色及び紫色の系で図柄をししゅうし、黄緑色の系の枠で囲んだものを付ける。</p> <p>形状は、第6図2のとおりとする。</p>	
本部指揮救助活動服	上 衣	地 質	オレンジ色の導電性を有する難燃性の布地とし、襟、肩及び後面の上部に紺色を配する。
		制 式	<p>折り襟とし、掛け合わせにファスナーを付ける。</p> <p>胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>そでは、ひじ当て付き長そでとし、そで口にファスナーを付ける。</p> <p>後面の上部に「京都市消防局」及び「SUPER COMMAND RESCUE TEAM」の文字をオレンジ色の系でししゅうする。</p> <p>胸部の左に胸章並びに所属章及び個人章を付ける。</p> <p>形状は、第7図1のとおりとする。</p>
		胸 章	別表第1救助活動服と同様とする。
		所属章 個人章	別表第1活動服合冬服と同様とする。
	ズ ボ ン	地 質	別表第1救助活動服と同様とする。
		制 式	

	バ ン ド	
	本部指揮救助隊員 腕章	紺色の布地の台地に赤色の糸で縁取りを、白色、金色及び紫色の糸で図柄を、金色及び赤色の糸で「京都市」、「本部指揮救助隊」及び「SUPER COMMAND RESCUE TEAM」の文字をそれぞれししゅうし、黄緑色の糸の枠で囲んだものとする。 本部指揮救助隊員は、左上腕部に本部指揮救助隊員腕章を付ける。 形状は、第7図2のとおりとする。
整備作業帽	地 質	濃紺色の布地
	制 式	前高野球帽型とし、前ひさし及びあごひもは、地質と同様とする。 形状は、第8図のとおりとする。
	帽 章	別表第1救助活動帽と同様とする。
	周 章	帽の腰周りに1条の白色の線を入れる。
整備作業服	地 質	濃紺色の布地
	制 式	台付きテーラー襟とし、上衣とズボンのつなぎ服とする。 掛け合わせに、ファスナーを付ける。 胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付け、胴にはバンドを付ける。 そでは、長そでとし、そで口にファスナーを付ける。 後方の左右に各1個のポケットを付け、すそは、シングルとする。 胸部の左に胸章並びに所属章及び個人章を付ける。 形状は、第9図のとおりとする。
	胸 章	別表第1活動服合冬服と同様とする。
	所 属 章	
	個 人 章	
整備作業靴	黒色の皮革製又は合成皮革製の短靴で、鋼板入りとする。	
飛行帽	地 質	オレンジ色の布地
	制 式	野球帽型とし、前ひさし及びあごひもは、地質と同様とする。 形状は、第10図1のとおりとする。
	帽 章	帽の前面に、紺色の台地に銀色の金属製消防き章を金色の糸で翼模様をししゅうしたもので囲んだ標章を付ける。 形状は、第10図2のとおりとする。
	地 質	オレンジ色の布地

飛行服	上衣	制式	<p>折り襟とし、掛け合わせにファスナーを付ける。</p> <p>胸部の左右に各1個のファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>そでは、長そでとし、左の上腕部に1個のファスナー及び鉛筆差し付きポケットを付け、そで口にファスナー開きのタックをとる。</p> <p>後面は、そで付け部から左右にタックをとる。</p> <p>左右の脇下端にゴムベルトを付ける。</p> <p>胸部の左に胸章並びに所属章及び個人章を付ける。</p> <p>形状は、第11図1のとおりとする。</p>
		胸章	<p>白色の布地の台地に「京都市消防局」の文字を赤色でししゅうする。</p> <p>形状は、別表第1活動服合冬服と同様とする。</p>
		所属章 個人章	別表第1活動服合冬服と同様とする。
	ズボン	地質	上衣と同様とする。
		制式	<p>ひざ当て付き長ズボンとし、右もも及び両下肢の側面に各1個のファスナー付きポケットを付ける。</p> <p>左ももに地図留めを付ける。</p> <p>すそは、シングルとし、ファスナー開きのタックをとる。</p> <p>形状は、第11図2のとおりとする。</p>
	バンド		<p>オレンジ色の合成繊維製とし、バックルを付ける。</p> <p>形状は、別表第1活動服と同様とする。</p>
防寒服	地質	濃紺色の布地	
	制式	<p>丸首襟とし、地質と似た色のジャージを付ける。</p> <p>掛け合わせに、ファスナーを付ける。</p> <p>前面の下部の左右に各1個のポケットを付ける。</p> <p>そでは、長そでとし、そで口及びすそに地質と似た色のジャージを付ける。</p> <p>後面は、肩部から左右にひだをとる。</p> <p>胸部の左に胸章を付ける。</p>	
		形状は、第12図のとおりとする。	
	胸章	飛行服と同様とする。	
飛行靴		黒色の皮革製半長編上靴とする。	
音		地質	白色の布地
		円形とし、前ひさは、赤色の布張り合成皮革製とし、金色の糸で装飾ししゅうする。	

楽

帽子

合 帽	制 式	あごひもは、蛇腹組の金線とし、あごひもの両端は、帽の両側において金色の金属製消防き章各1個で留める。 形状は、第13図1(1)のとおりとする。
	帽 章	別表第1合冬帽と同様とする。ただし、台地は赤色の布地とする。
	周 章	帽の腰周りに、赤色のなな子織を巻く。 形状及び寸法は、第13図1(2)のとおりとする。
冬 帽	地 質	白色の布地
	制 式	合帽と同様とする。
	帽 章	合帽と同様とする。ただし、台地は、黒色の布地とする。
夏 帽	周 章	合帽と同様とする。ただし、なな子織は、黒色とする。
	地 質	白色の布地
	制 式	合帽と同様とする。ただし、前ひさしは、水色の布張り合成皮革繊維とし、あごひもは、金色の糸でしま織りとし、側面は、メッシュとする。
	帽 章	合帽と同様とする。ただし、台地は黒色のフェルト地とする。

合 服

上 衣	地 質	白色の布地
	制 式	折り襟、シングルとし、消防き章を付けた金色の金属製ボタン4個を1行に付ける。 両肩に布製の肩章を付ける。 胸部の左右に金色の糸で装飾ししゅうする。 前面の下部の左右に各1個のふた付きポケットを付ける。 後面の腰部に、布製飾りバンドを付け、同バンド左右に金色の金属製ボタンを各1個付ける。 後面のすそは、サイドベンツとする。 襟の周囲、ポケットのふた、飾りバンド及びサイドベンツの周囲は、赤色とし、1条の蛇腹組の金色の糸で縁取る。 そで口は、赤色とする。 形状は、第13図2(1)アのとおりとする。
	肩 章	赤色の布地の台座に、金色の糸で、縁取り及び2条ないし3条の線をそれぞれししゅうし、消防き章の付いた金色の金属製ボタンで留める。 形状及び寸法は、第13図2(1)イのとおりとする。

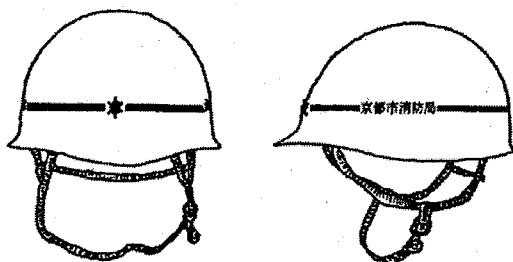
隊

被 服 付		そで章	2条の蛇腹組の金色の線をまとう。 形状は、第13図2(1)ウのとおりとする。	
		ズボン	地質	白色の布地
			制式	長ズボンとし、両もも及び後方の左右に各1個のポケットを付ける。 すそは、シングルとする。 形状は、第13図2(2)アのとおりとする。
			側章	1条の蛇腹組の金色の線で縁取った赤色の布地を左右の側面の中央部に入れる。 形状は、第13図2(2)イのとおりとする。
	冬服	上衣	地質	赤色の布地
			制式	合服と同様とする。ただし、襟の周囲、ポケットのふた、飾りバンド、サイドベンツの周囲及びそで口は、黒色とする。
			肩章	合服と同様とする。ただし、布地の台座は、黒色とする。
			そで章	合服と同様とする。
		ズボン	地質	白色の布地
			制式	合服と同様とする。
			側章	合服と同様とする。ただし、1条の蛇腹組の金色の線で縁取った布地は、黒色とする。
	夏服	上衣	地質	白色の布地
			制式	開襟(小開き式)とし、金色の金属製ボタン5個を1行に付ける。 両肩に布製の肩章を付ける。 胸部の左右に各1個のふた付きポケットを付け、金色の金属製ボタンで留める。 形状は、第13図3のとおりとする。
			肩章	合服と同様とする。ただし、布地の台座は、紺色とする。
ズボン		地質	白色の布地	
		制式	合服と同様とする。ただし、後方の左右ポケットは、金色の金属製ボタンで留める。	
バンド			濃紺色の布地とし、バックルを付ける。 形状は、第13図4のとおりとする。	
ネクタイ	合服用		赤色の布地で、幅ネクタイとする。	
	冬服用		銀色の布地で、幅ネクタイとする。	
演奏靴			白色の皮革製又は合成皮革製とする。	
かばん			黒色の皮革製のショルダーバッグとする。 形状は、第14図1のとおりとする。	
	査察腕章		赤色の布地に、2条の白色の線を入れる。 形状は、第14図2(1)のとおりとする。	

品	腕章	防火運動腕章	赤色の布地に、「防火運動」の文字を白色で入れる。 形状は、第14図2(2)のとおりとする。
	き	章	合冬服の襟章と同様とする。ただし、直径は12ミリメートル、市章径は11ミリメートル、消防き章径は7ミリメートルとし、ピン式とする。
	帽	雨覆い	透明のビニール地で、帽子を覆うものとする。

第1図 保安帽

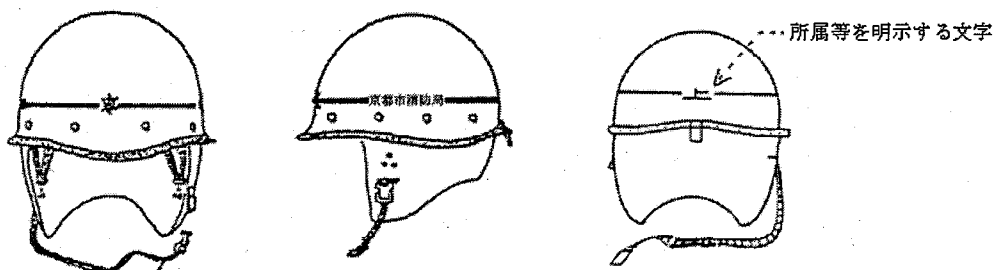
1 制式



2 帽章

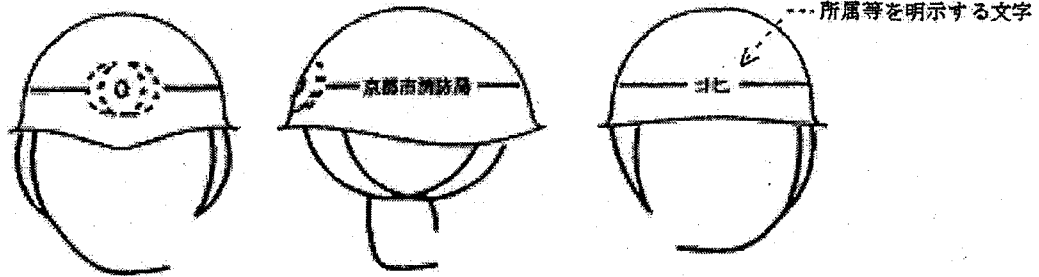


第2図 救助帽制式

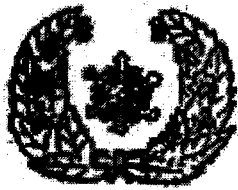


第3図 救急帽

1 制式

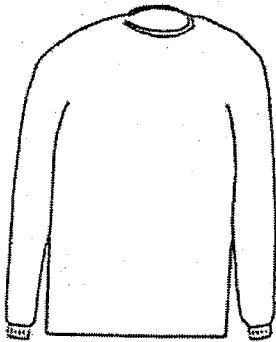


2 帽章

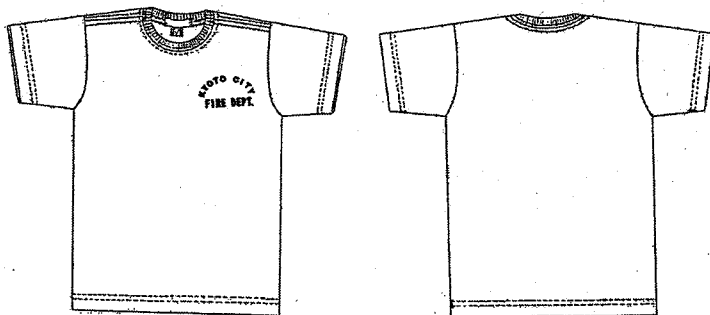


第4図 活動用下衣

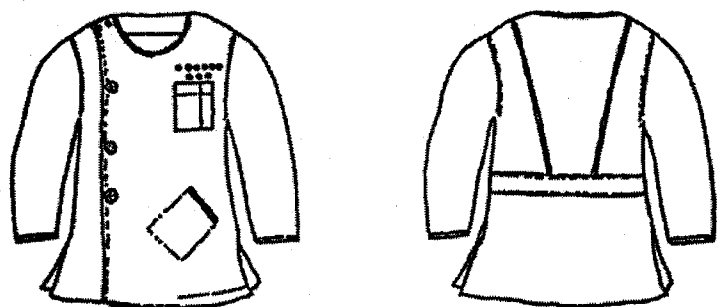
1 長そで



2 半そで

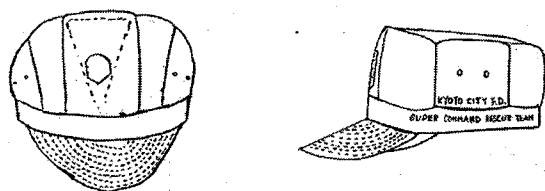


第5図 救急衣制式



第6図 本部指揮救助活動帽

1 制式

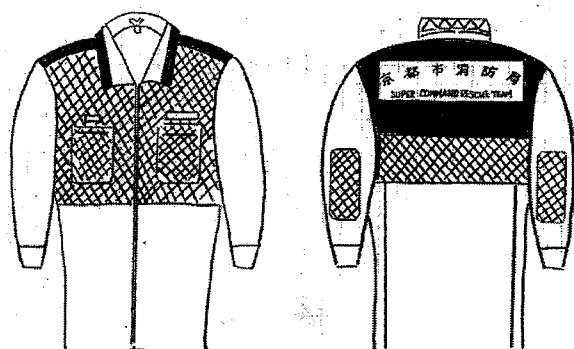


2 帽章



第7図 本部指揮救助活動服

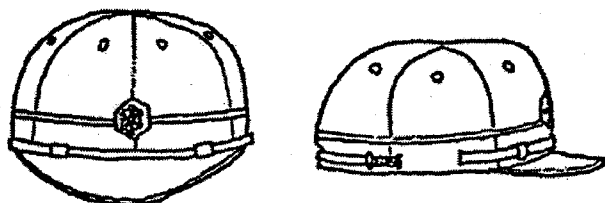
1 上衣制式



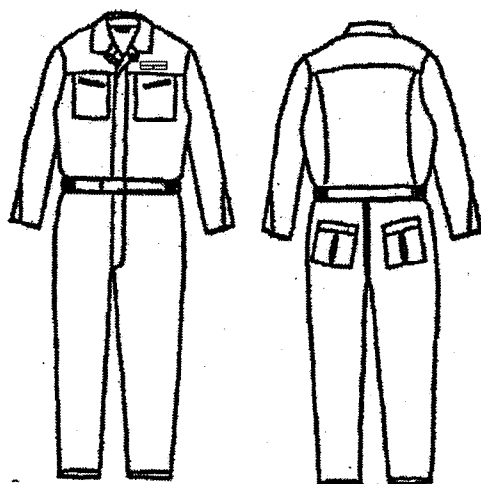
2 本部指揮救助隊員腕章



第8図 整備作業帽制式

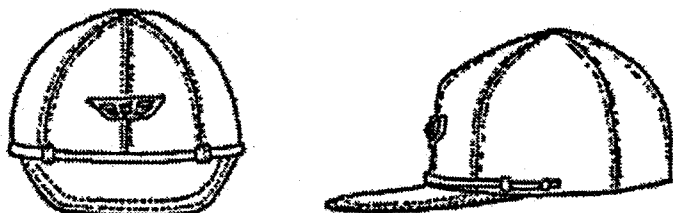


第9図 整備作業服制式



第10図 飛行帽

1 制式

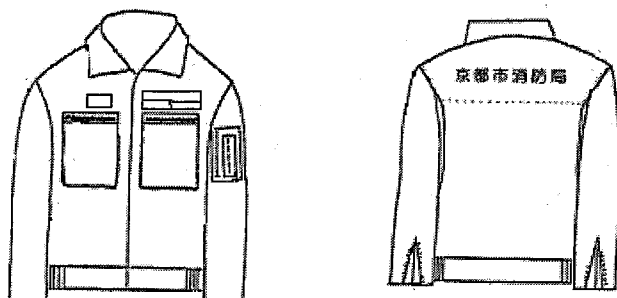


2 帽章

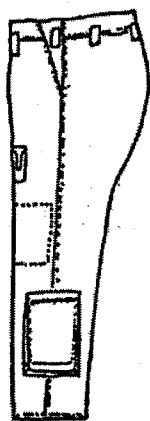


第11図 飛行服

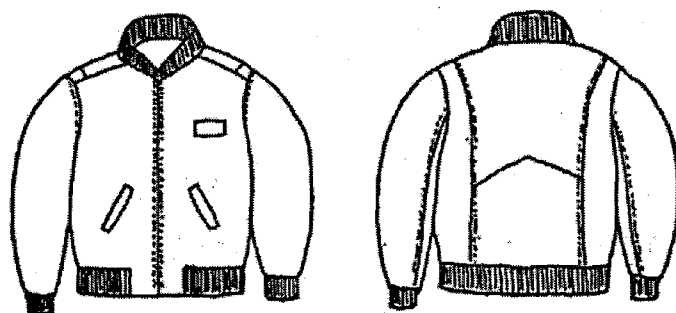
1 上衣



2 ズボン制式



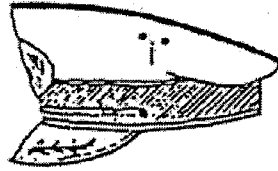
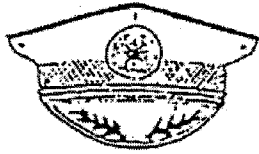
第12図 防寒服制式



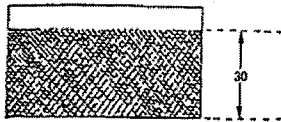
第13図 音楽隊被服 (数字は、寸法を示し、その単位はミリメートルとする。以下同じ。)

1 合帽

(1) 制式



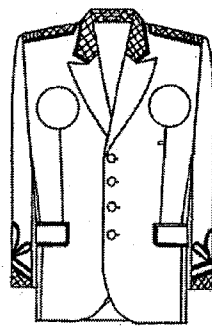
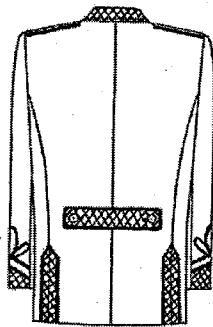
(2) 周章



2 合服

(1) 上衣

ア 制式



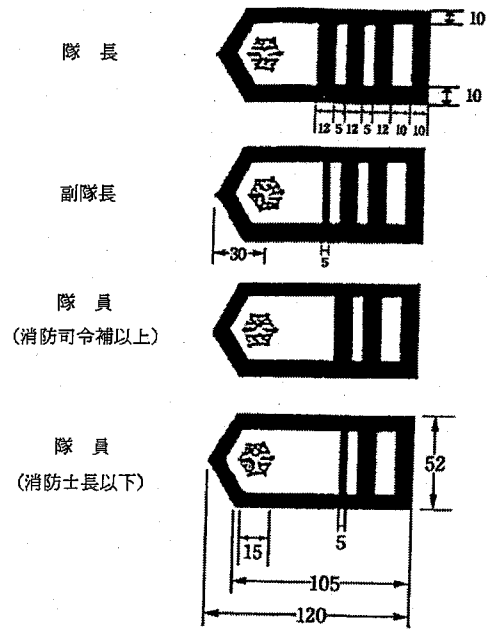
胸部にいれるししゅう

右前身頃

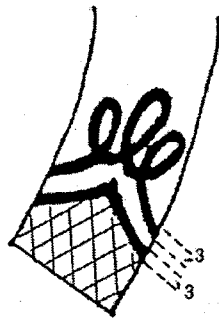
左前身頃



イ 肩章

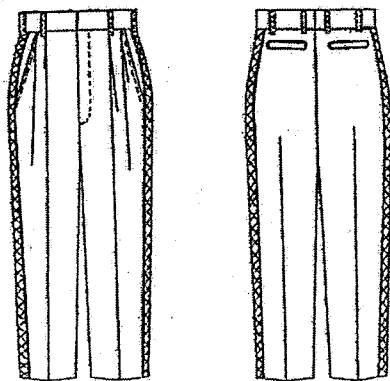


ウ そで章

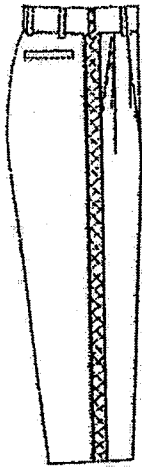


(2) ズボン

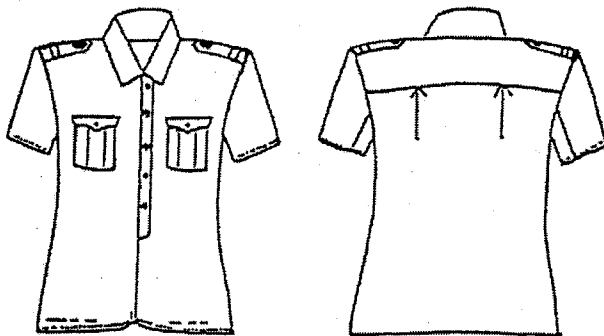
ア 制式



イ 側章



3 夏服上衣制式

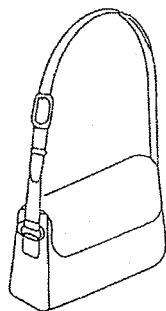


4 バンド



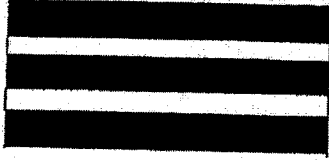
第14図 付属品

1 かばん



2 腕章

(1) 査察腕章



(2) 防火腕章



附 則

(施行期日)

1 この訓令は、平成17年8月29日から施行する。

(経過措置)

2 この訓令による改正前の京都市消防吏員服制規程の規定による救急活動服及び活動用下衣半そでは、当分の間、これを使用することができる。

(関係訓令の一部改正)

3 京都市消防職員被服等貸与規程の一部を次のように改正する。

別表消防吏員の項中 「帽 雨 覆 い」 を 「帽 雨 覆 い
バ ン ド」 に改め

る。

(消防局総務部人事課)